

THE FINAL COUNTDOWN

ファイナル・カウントダウン

by J. Tempest

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

この曲のポイント

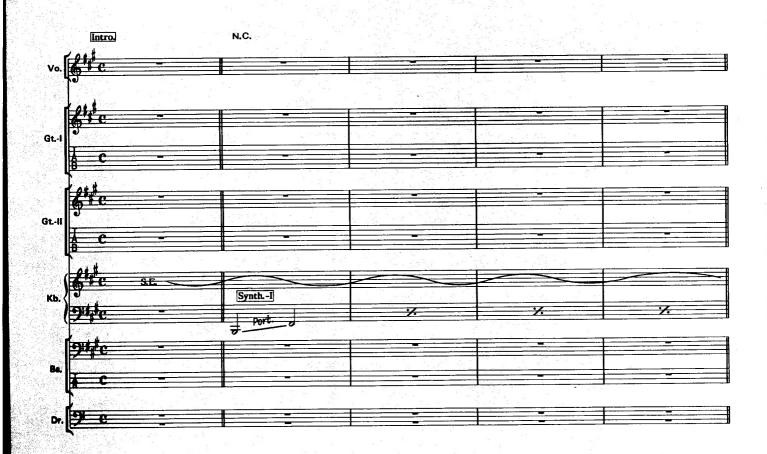
GUITAR: バッキングは2本のギターから成っている。ギターIは16ビート・ピッキングによるリズミカルなパターンを、またギターIIは、ほとんどが白玉によるプレイだ。ギターIの∫ ロークンを発展で力強くストローク。ギターIIのほうは、コードがきれいに鳴るような音色設定を。なおソロにはかなりハイ・スピードのフレーズが出てくるので、正確なピッキングが身についていなければ弾きこなすことはできないだろう。

KEYBOARD: スケールの大きなシンセ・オーケストラで始まるドラマチックなナンバー。曲のイメージを充分表現するためには、ツイン・キーボードで分担してプレイする

ことが望ましい。またエフェクターにも充分気を配ること。

BASS: ギターとほぼユニゾンの 厂門 というパターンから成っている。あまり重たい ノリにならないほうがよいが、しっかりした 8 ビートを打ち出すようにしたい。ところ どころに出てくるギターとのオクターヴ・ユニゾンもバッチリとキメよう。

DRUMS: □ という16分のパスドラがポイント。このハネた感じのパスドラに対し、ハイハットはハーフ・オープンで置さを出している。この対比を上手く出すことだ。またギター・ソロ直前にツー・パス(またはダブル・ペダル)による32分音符の連打があり、聴かせどころになっているので、スムーズにできるまでくり返し練習すること。





●(Kb.): シンセの多重によるオーケストラ・サウンド。メロディ、ハーモニー、ベース・ライン、カウンター・メロディの4つの要素のバランスに気を配ろう。できればステレオでモニターしたいところだ。



②(Gt.):16ビート・ピッキングによるシンプルなパターンではあるが、2本の弦を鳴らすので力強いピッキンクで。

❸(Kb.):下段のポリ・シンセにステレオ・コーラスなどを使い、上段のメロディと距離的なコントラストをつければ、ライヴなどは特によい効果が得られるだろう。

④(Ba.):メインとなるベース・パターン。それだけにノリには注意したい。また中・高音域を上げた比較的ブライトな音色で、ピックを使って弾こう。
⑤(Dr.):この曲の基本パターン。バスドラの16分をしっかり踏むように。



⑥(Ba.):ギターとのオクターヴ・ユニゾンだ。キッチリ合わせること。

⑦(Kb.):ヴォーカル導入前のミステリアスなメロディだ。ここでシンセのプログラム・チェンジを行うため、ライヴなどでは⑥上段の全音符を多少早めに(3拍までで)切る必要がある。

❸(Kb.):上段をデジタル、下段をアナログ・シンセでプレイすると、上段のハーモニーが浮き出て効果的だ。



(*) ロボー (*): はまわりカッティングの要領でストロット (*): スーペー ごのりなんをしっかり打ち出土 ニートリ記述の第音音音 (*) ・・・リ出すよう心がけ



●(Dr.):短いブレイクのあとバスドラ、スネアと入ってくる。バスドラがモタったりするとカッコがつかないので、しっかり体でリズムを感じていること。







Δ

Вm



ゆ(Gt.): すばやくアーム・ダウンし、すぐにもとにもどすことで音を出す。ノー・ピッキングでもOKだ。

●(Gt.):オーソドックスなフレージングだが、E 音 →F*音のチョーキングを交えることでフレーズ自体 が生きてくる。ペンタトニック・スケールでも、チョーキングする音や符割りを工夫することでインパクトのあるものにできるというよい例だ。



心(Bar) ニニもギターとのユニゾン。音を切るタイ - ケナでピッタリ合わせること。

●(Dr.):ハイハットで16分を刻むパターン。2×のスネアのロールはオーバー・ダビングによるものだ ろう。実際のプレイではシンバルを省略するとよい。



⑫(Dr.): きっちりリズムの構造を把握してからトライ。バスドラのタイミングに注意しよう。



ROCK THE NIGHT

ロック・ザ・ナイト

by J. Tempest

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

■この曲のポイント

GUITAR: バッキングはルート+5度によるリフと、「ファイナル・カウントダウン」と同様のI6ビート・パターンによるシンプルなもの。ドライヴしたサウンドで、ノリに気をつけてプレイしよう。そしてソロにはアームを使った小技や強力な速弾きが出てくるなど、ギタリストにとってなかなか手ごわい曲だ。

KEYBOARD: オルガンのグリッサンドで始まり、強力にドライヴするナンバー。レスリー・スピーカーを使っているようだが、デジタル・ディレイなどでかなり近い音が出

せる。

BASS: ギター・リフとのユニゾンなど、フレーズ自体はシンプルながら、頻繁に聴かれる経過音的フィルインなど参考になるところも多い。原曲は指弾きのようだが、とにかく図太い音を出すよう心がけてほしい。

DRUMS: パターン自体はシンプルなものだ。[Intro.] ではギター、ベースとバスドラのリズムがユニゾンになっている。バンド全体でバッチリ合わせること。特にベースとのコンビネーションには注意。また複雑なフィルインもしっかりマスターしてしまおう。



●(Gt.):メイン・リフ。休符部分でしっかり音を切り、メリハリのあるプレイにしたい。体で16ビートのノリを感じていないと、2小節4拍目の γ♪がモタってしまうので気をつけよう。

●(Kb.): イントロのグリッサンドが曲にハズ・を与えている。原曲をくり返し聴いてタイミングをつかんでもらいたい。またライヴなどでは、多少深手めに2拍ぐらい前からグリッサンドするのもよい。

③(Dr.):スネアのロールのようなサウンドは、テープ逆回しによる2・4拍目のスネアのエコーだ。
 ④(Ba.):ギターとユニゾンのパターン。 * ♪ がモタらないよう正確なピートで。





❸(Dr.):シンプルなパターンだが、ハイハットの刻みがないのでかえってノリを出すのが難しいかもしれない。ベースとバッチリ合わせて重いノリでプレイしよう。

❷(Gt.):16ビート・ピッキングのパターン。2小節 目のシンコペーションには特に気をつけて。

●(Dr.): 突然16分のフレーズが入ることで、モタったりしないようにしたい。





®(Kb.): ライヴなどでサンプリング・ディレイなどのサンプリング機能が利用できる場合は、ここで用いると効果的。その際にはグリッサンドはカットしたほうがよいだろう。





●(Gt.):とてつもない速弾き。符割りはあまり気に せずに、一気に弾ききってしまうことだ。



CARRIE

by J. Tempest & M. Michaeli

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

この曲のポイント

GUITAR: 美しいパラード・ナンバー。バッキングはいたってシンプルだ。こういった曲では特に、各楽器のパランスに注意してもらいたい。またフィルインやソロなど、充分ウタわせるようにプレイしよう。

KEYBOARD:バラード調のゆったりとしたイントロは、実際は音が3つも重なっているのでキーボーディストは2人必要だ。音を整理してエレビだけで弾くことも不可能ではない。ただ後半で別の音色も使われるため、シンセも1台はなくては困る。盛り上が

りのあとは、ムリに目立とうとせず地道にコードをテンポどおり押さえていこう。

BASS: この曲では、ベースが非常に重要な部分を占めている。比較的動きの多いラインで、ピック弾きによるプライトな音色でのプレイだ。サビに出てくるフィルインなどはもちろん、全体的に丁寧にプレイしてもらいたい。

DRUMS: テクニック的には特に問題ないようだが、大きなノリをしっかりつかみ、曲のイメージを大切にしたドラミングを心がけよう。なおパスドラの16分は、ベースとピッタリ合わせること。



●(Kb.):エレビとチェンバロ系のシンセが絡み合っている。上段の上声部の音符がシンセ・パート。エレビと別の音を弾いている場合は小玉で表配した。ゆったりしたフレーズだが、流されないようにきっちり演奏しよう。

❷(Kb.):ここからアコースティック・ピアノが加わり、ますます複雑になる(上段の下声部)。エレビは下段にまとめて記した。エレビの左手パートをベースに任せ、右手パートとピアノ・パートをエレビ1台で弾いてもよいだろう。



❸(Ba.):16分音符はスタッカート気味に弾きたい。 ④(Dr.):1×はブレイクで、D.S.timeにこのパター

ンが入ってくる。

⑤(Gt.):グリッサンドとプリングの特性を活かし、 なめらかさを出すように。

❻(Ba.):ピック弾きのようだが、アタック自体はあくまでもソフトにしたい。



❷(Dr.):このフィルのほかに、オーバー・ダビング によるスネアのロールが入っている。同時に1人で カバーすることはできないので、記譜したものを叩 〈ほうが無難だろう。

❸(Gt.):白玉によるプレイ。ポジション・チェンジの際、なるべく音にすき間ができないよう注意。

②(Dr.):16分のパスドラをベースとキッチリ合わせること。

- ❶(Kb.):ブラス系の明るい音色。音価が短いので、 歯切れよく鳴るよう心がけて弾きたい。

00 FJ





●(Dr.):ここからライド・シンバルが入ってくる。 音量のバランスに注意しよう。

●(Ba.): D.S.2.timeのみプレイするフィルイン。音をなめらかにつなぐために、グリッサンドは小指で行うとよい。

●(Kb.): Intro. で使われたチェンパロ系シンセ。少し音量を控えめに。

●(Ba.):このフィルが曲の表情づくりに大きく貢献している。それだけに丁寧に、特にグリッサンドで音が弱くならないよう気をつけること。







●(Gt.): ギター2本による3度のハーモニー。チョーキングやハンマリング+プリングの部分では、特に音程とタイミングに気をつけること。

●(Dr.):ここからリタルダンド、ドラムスは静かに 抑えて消えていくような感じに。

DANGER ON THE TRACK

暗闇のストレンジャー

by J. Tempest

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

この曲のポイント

GUITAR: 軽快でファンキーな16ビートのナンバー。バッキングはルート+5度の和音と単音のミュート弾きで、どちらも細かい16ビートのパターンだ。サウンドを充分にドライヴさせ、ノリよくプレイ。ソロの異弦同フレットのフレージングなど、スムーズなフィンガリング&ピッキングが要求される。

KEYMOARD: イントロからすでにキーボードを前面にフィーチャーしたアレンジになっている。中間部には長めのオルガン・ソロもあり、キーボーディストにとってはうれしいナンバーだろう。このソロにはかなり高度なテクニックが必要だが、オルガン・ソ

口を研究するためにもぜひマスターしておきたいものだ。

BASS:指弾きかピックを使っているのか定かでないが、指弾きであれば©の16分フレーズなど、粒をそろえて安定したビートを出すことだ。またピックでプレイするなら、しっかりした16ビート・ピッキングで図太い音を出してほしい。

DRUMS: 囚などに出てくるバスドラの 戸。 これがリズムのシンになっているので、ベースと合わせてパッチリキメたい。 またハイハットはハーフ・オープンにし、 あまり軽いノリにならないように。



●(Kb.):こういった16分のフレーズには、シーケン サーのような正確なプレイが要求される。16分の粒 が完全にそろうまでくり返し練習してほしい。



❷(Gt.):ファンキーなりフだ。歯切れよく弾きたい。 2拍目のE・A音を少しクォーター・チョーキング 気味にするとより雰囲気が出るだろう。 ❸(Kb.):オルガンによるコード・バッキング。ギターとのユニゾンなのでタイミングに注意。なお囚から多少ヴォリュームを下げ、ヴォーカルを聴かせるようにしよう。

❶(Ba.):ギターとのユニゾン。ノリが何より大切な ところ、納得がいくまで練習を。

⑥(Dr.):メインとなるパターン。バスドラの 戸 を ベースと合わせてタイトな感じを出したい。





●(Kb.):ポリ・シンセによるハーモニー・バッキング。エフェクターにコーラスを使って広がりを。ステレオでモニターできればよい効果が期待できるだろう。

⑩(Ba.):ギターとのユニゾン。スムーズなピッキングで、正確かつ力強いビートを出してほしい。

●(Dr.):バスドラのパターンが □ に変わるので注 意。 4 拍目の n ♪ もキチッと入れるように。



(Prod.):曲調にマッチした短いソロの出だしのフレス すべての音をピッキング・ハーモニタスで弾が、力強く、少しタメ気味にプレイすると感じができたろう。



●(Gt./Ba.):ギター、ベースともに力強く、地を這 うようなピートを出そう。

●(Kb.): ロックの伝統的なオルガン・ソロといえそうなもの。このスタイルのアドリブを理解するためにも、多少難しいフレーズではあるがしっかり弾きこなしてほしい。

⑤(Ba.): 第→为→売のグリッサンドは、チョーキングのニュアンスにピッタリ合うようにタイミングに注意したいもの。



(1) 1音チョーキングと1音半チョーキングが 上弦ハイ・ポジションでのプレイなので、音(1 た分な注意が必要だ。)

⑰(Dr.):1小節目の γ↑、2小節目バスドラ √7 の タイミングがポイント。特に前者は力強く。

❸(Gt.):異弦問フレットというポジショニング。指を寝かせて弾くとよいが、音が重ならないように注意したい。また2つめのフレーズを、すべてアップ・ピッキングで弾けるようにしておくと応用がきく。



●(Kb.):超低音域をプレイすることになるオクターヴを重ねたぶ厚い音色なので、2つ以上のオシレーターを持つシンセが望ましい。

NINJA

ニンジャ

by J. Tempest

Copyright \otimes 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

■この曲のポイント

GUITAR: Intro. のコードに沿ったリフが印象的なポップで軽快な曲。これ以外にも様々なバッキング・バターンが出てくる。各パターンごとにリズムやノリが変わるので注意が必要。ソロは3連符を中心に構成されていることで、変則的なフィンガリングも出てきてしまう。「つ」つきちんと把握しながら弾いてほしい。もちろんサウンドは充分ドライヴさせること。

KEYBOARD: オルガン、ストリングス I、ストリングス II と 3 種類の音色が使われているが、重なって使われることはないので、切り換えをスムーズに行えばキーボード I

台でカバーすることも不可能ではない。全体に目立ちすぎず、曲を裏側から支える役目 に徹しよう。

BASS: ギターとユニゾン、あるいはサポートするようなかたちのラインから成る。ギター同様各部分ごとに変わるノリをしっかりつかむこと。サウンドをドライヴさせ、強力な16ビートを打ち出したい。

DRUMS: [Intro] や囚などでは軽快な&ビートを、圏でハーフ・テンポになり少し重たいノリに、というようにそれぞれのパターンを頭に入れ、スムーズ&パワフルなドラミングを心がけよう。



● (1):曲の顔となる印象的なフレーズ。1小節目 ハン・マリング!プリングをスムーズに。またここ : リひともツイン・ギターで3度のハーモニーを けて演奏したい。

❷(Kb.):きらびやかなオルガン+ストリングス系。 金属的な響きながら厚みもほしいので、サブ・オシ レーターなどで1オクターヴ下の音も聴こえるよう にしておくこと。

❸(Ba.): ギター・パートをサポートするかたちのベース・ラインだ。シンコペーションが連続するが、しっかりとキープしたい。



●(Dr.): □ のパスドラをキチッと入れ、リズムの 流れを止めないように。





②(Kb.): 音色は特に変わってはいないようだ。オクターヴのアルベジオでは、I・3拍目(最低音)を左手でとると弾きやすい。

❸(Ba.):各音とも確実に4拍分伸ばしきること。

❷(Dr.):ここからハーフ・テンポとなる。突っ込み 気味にならないよう、大きなノリで叩こう。



(回下り):この曲では2種類のストリングスが使われいるか、これはその1つめの音。やわらかで静か、4 5 存在感のある響きは、深めのリバーヴで作る。れば点くから聴こえてくるような感じにしたい。 1110ラストもこの音だ。 ❶(Ba.)∶しっかりと押弦し、シンのある音を出そう。



●(Kb.):休符をきちんととってスタッカート風に。 そして2小節3~4拍のキメだけはテヌート気味に 抑えること。リズムがとりにくいかもしれないので 注意が必要。 ●(Dr.):ここでちょっと変わったリズム・パターン になっている。フロア・タムとパスドラが、まるで 地響きのようだ。スネアの部分にアクセントをつけ てスムーズに叩こう。





●(Dr.): γ 戸のバスドラをギター、ベースとピッ タリ合わせることによって、強力なドライヴ感が打 ち出される。

●(Gt.): 3連フレーズの連続。少しアーシーな雰囲気を持つセンスあるプレイだ。%のチョーキングは中指で行うこと。そうするには、その前のフレーズのフィンガリングも自ずと決まってくるはずだ。







CHEROKEE

チェロキ・

by J. Tempest

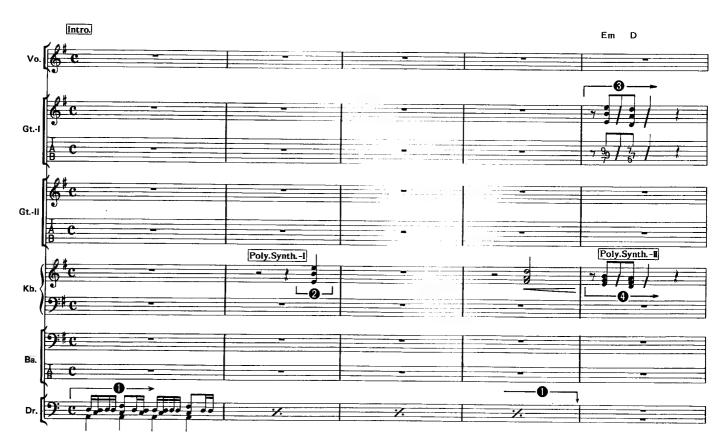
Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

■この曲のポイント

GUITAR: バッキング自体はシンプルなパターンながら、国で見られるような2分休符のすき間によってコントラストがつき、とても効果的なものになっている。ミディアム・テンポのため、ゆったりとリズムにのったプレイを。またメロディアスなソロもフィーチャーされており、きれいなヴィブラートでフレーズをウタわせたい。なおソロのラストには3度のハーモニーも加えられている。

KEYBOARD: 曲中のクライマックス部分にキーボード・ソロが現れる。両手を駆使した難易度の高いものではあるが、ライヴなどでは視覚的な効果も期待できる(2台のシンセを同時に弾くため)ナンバーだろう。

DRUMS:まるでアフリカン・ビートを思わせるような、ユニークなドラム・ソロから始まる曲。これが聴かせどころといえるので、スムーズに叩いてもらいたい。またギター、ベースが入ってきてからは、シンプルな8ビートのパターンで、ズッシリとした重たいノリでプレイしよう。



- ●(Dr.):ユニークなリズム・バターンなので、スムーズに叩くには練習が必要。アクセントのつけかたがポイントといえる。
- ❷(Kb.): サンプリングによるオーケストラ・ヒット のようだ。ポリ・シンセでアタックの強い音色を作 りリバーヴを深めに効かせれば、同じような効果が 出せるだろう。
- ❸(Gt.): Intro. 部分では休符がポイント。体でしっかりリズム・キープして、シンセとピッタリ合わせること。
- ●(Kb.): ギターとともにメイン・リフをプレイする。 タイミングはもちろん、ギターとのヴォリューム・ バランスにも気を配ろう。
- ⑤(Dr.):シンバルとバスドラのウラ打ちによるキメ。 パンド全体で合わせるために、まずドラマーがバッチリ叩きたい。



てプレイ。ただしリズム自体はルーズになってはイケナイ、あくまでもノリがである。

している点に注目。



●(Gt.):2音によるミュート弾き。ミュートの中で も開放弦が最も難しいので気をつけよう。

Dr.

●(Ba.):図太い音で弾きたいところ。サウンド作り がポイントだ。



●(Kb.):ポリ・シンセによるハーモニー。コーラス、 ディレイなどを使った広がりのある音作りが望まし い。できればステレオでモニターしよう。







(Fe Bac):ほぼギターとユニゾンのパターン。1 小節 :前日アタマの8分休符が効果的だ。また2小節目 ノコペーションを、ギターと合わせてスムーズ しょたい。

- **❸**(Dr.):シンコペーションのノリをしっかり出した
- いところ。 **⑤**(Gt.): 3連でのハンマリング+プリングをよくウ タわせること。
- ●(Gt.):ギターIIとギターIIIは3度のハモリ。特に ギター!!!は超ハイ・ポジションでのプレイだが、フ ィンガリングを確実に行おう。





●(Kb.):16分音符の多い細かいフレーズながら、それほど難しいというものではない。ここはキーボードがメインとなる部分だ。きっちりと弾きこなしてほしい。

●(Ba.):音の粒をそろえ、確実なサポートを。

●(Kb.):ここから第2のメロディが下段に現れる。 上段と同時にプレイするのはなかなが難しいので、 くり返し練習してもらいたい。







●(Dr.):シンバルとパスドラのウラ打ちに16分のス ネアが絡む。スムーズなスティック・ワークでクリ アしよう。

●(Gt.):オクターヴ奏法部分。不要弦を確実にミュート、右手はストロークで。

TIME HAS COME

タイム・ハズ・カム

by J. Tempest

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

この曲のポイント

GUITAR: 前半はアコースティック・ギター、中盤からハードなディストーション・サウンドに変わる。様々なパッキング・パターンが出てくるが、特に目ではリズミカルなプレイを心がけよう。ソロも前半はゆったりしたフレーズの連続でのびのびと、後半は一転してハードなものになる。

KEYBOARD: 出番が少ない分音作りには充分に凝りたい。ストリングス系の音ばかり4種類使われているが、エンベロープや音の厚み、奏法などでヴァラエティを。シン

セは2台、1台がシーケンサー用だ。なおキーボーディストは1人で充分だろう。

BASS: ほとんどギターとのユニゾンというシンプルなものではあるが、動きの多いラインなので確実にプレイしよう。また各パターンで雰囲気が変わり、その場に応じた表情作りも要求される。

DRUMS:ドラムスもベース同様、各パターンごとに表情を変えたい。またパスドラが 重要なポイントとなっており、譜面どおりにきっちり踏んでほしいところだ。



●(Kb.):シーケンサーによるリピート・パターン。 會色は短いエンベロープのストリングス系。 ❸(Kb.):やや厚めのストリングス系の音色だが、エレビのようなアタックがほしい。ブラス的な明るさも加えたいところだ。



●(Gt.):アコースティック・ギターでのコード・ア ルベジオ。コードの変わりめまでしっかり音を伸ば すこと。



●(Dr.):このドライヴ感はバスドラによるものだ。 譜面どおりきっちり踏もう。

●(Gt.) ディストーション・サウンドでのコード・ アルペジオ。左手が忙しいと思うが確実な押弦で。

かいため、確実な押弦とピッキングが要求される。



●(Kb.):深くリバーヴをかけたストリングス系+ヴォイス系。1小節目は静かにフェイド・イン、2小節2拍目あたりでフェイド*アウトさせる。全体にあまり大きな音になりすぎないように。

❸(Kb.):ストリングス系、またはオルガンでもよい。 終止コードを強調するものなので、静かながらきらびやかな音色がほしい。





●(Gt):リズミカルなフレーズ。プリングやハンマ リング部分でも、しっかりリズムが出せるように。

●(Dr.): ギターの細かいフレーズに対し、ドラムス はゆったりとしたリズムになっている。 2小節目の バスドラの 戸がアクセント。

●(Ba./Dr.):突然出てくるキメ。バッチリ合わせて ほしいところだ。





●(Gt.):開放弦へのプリングを利用した、オーソド ックスな速弾きフレーズ。

●(Gt.): フィンガー・テクニックによってフレーズ がなめらかなものになっている。 1 音 1 音丁寧にプ レイすること。

●(Kb.):[intro.]の❶と同じシーケンス・パターン。 リピートの1、2×は休み、3×でフェイド・イン。

HEART OF STONE

ハート・オブ・ストー by J. Tempest

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

この曲のポイント

GUITAR: ルート+5度の和音、そして2音、単音とパッキング・パターンがヴァラエティに富んでいる。そのため右手のほうも、ストローク、ストレートなピッキング、ミュートと上手く切り換えよう。ソロはとてもメロディアスなもので、歪みが少ないわりには伸びのある美しいトーンが特徴だ。

KEYBOARD: キーボードは終始パッキングに徹しているともいえるが、イントロといいオルガン・グリッサンドといい、キーボードならではの効果を活かしたアレンジだ。 パッキングの研究にはもってこいのナンバーといえるだろう。 BASS: ギター・リフとのユニゾン・パターンと、 IDでのようなメロディアスなライン から成っている。 こういった太いトーンを出すには、アンプのセッティングも大切だが、 やはり指弾きで力強く弾くことだ。 なおギター・ソロのバックの細かいフレーズは、 音の1つ1つをしっかり出し、かつ正確なビートを刻むこと。

DRUMS:パワフルなドラミングさえ心がければ、テクニック的に難しいところはないので問題ないはず。ただバスドラのパターンが頻繁に変わり、またそれが重要なファクターとなっているため、きちんと把握してプレイしてもらいたい。



●(Gt.):この曲のメイン・リフ。2音フレーズ部分 は少しスタッカート気味に。また原曲同様ディレイ をかけると雰囲気が出るだろう。なおグリッサンド もきちんとオン・リズムで。 **❷**(Kb.):ボリ・シンセによるオブリガート。ギターのリフとともに曲のイメージを作り出す重要なものなので、ある程度ヴォリュームを上げてしっかりプレイしてほしい。



●(Kb.):ボリ・シンセでのハーモニー・バッキング。 ブラス系のやわらかい音色を作り、コーラスで広げる。ステレオでモニターすると最もよい効果が出せるはずだ。

●(Ba.): ギター・リフとのユニゾンだが、バスドラとのコンビネーションにも気をつけて。

●(Dr.):ベースとのコンピネーションに注意し、重 たいノリで叩くこと。





●(Kb.):ギターとともにオルガンでパッキングを行う。回4小節目のグリッサンドは、原曲をくり返し聴いて雰囲気をつかんでしまおう。ただし2・4拍目はギターと合わせてほしい。

●(Ba./Dr.):しっかりとシンコペーションを打ち出 そう。



❷(Ba.):ギターの後ろから浮き上がってくるような、 ❷(Ba.):力強く弦をヒットしたいところ。 効果的なラインだ。



●(Gt.):囚のリフの変形。符割りが細かくなり、雰囲気もガラッと変わる。

●(Gt.): 1弦ハイ・ポジションでの1音半チョーキング。しっかりチョーク・アップしてめざす音程まで上げきること。

●(Ba.):符割りの細かいフレーズ。あまり力まずクールにプレイしたい。



●(Gt.): ベンタトニック・スケールでの速弾き。ブリングやハンマリング部分でリズムが狂わないよう注意しよう。

●(Dr.): ここで16分のバスドラが入る。これまでが シンプルな8ピートだっただけに、モタらないよう 気をつけたい。 ●(Gt.):ついに24フレットが登場してしまう。この フレージングでは22フレットのチョーキングで代用 することもできない。オクターヴ下げるど前後の流 れが悪くなるので、フレーズ自体を変えるしかない だろう。



●(Dr.):3連によるフィル。フラム打ちの部分にア クセントをつけて。



●(Dr.):徐々にクレッシェンドしていこう。またス オア、フロア・タム、パスドラの3つの音が1つに 聴こえるようにしたい。

えること。基本ビートを出すパートがないため、3 拍目ウラからのユニソンが、ハシったりモタったり して全体がらとび出してしまうおそれがある。

ION THE LOOSE

オン・ザ・ルース

by J. Tempest

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

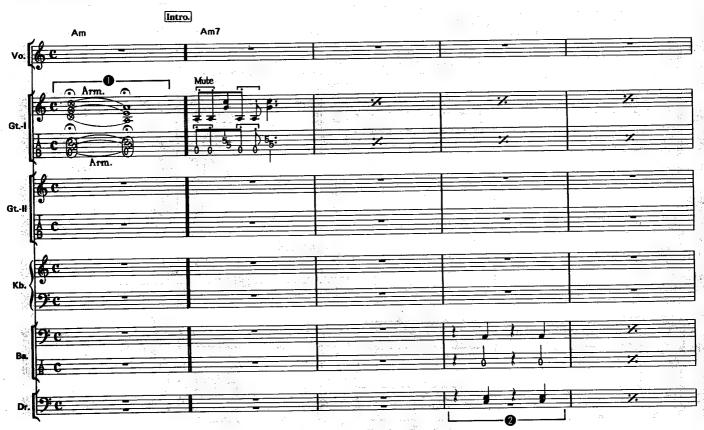
この曲のポイント

GUITAR:アルバム中最もハードなアップ・テンポのナンバー。[intro] と囚のリフさえマスターすればあとは問題ないだろう。リフ自体はオーソドックスなものなので、ノリに注意して"これぞハード・ロック"というようなプレイを心がけることだ。

KEYBOARD:全体にキーボードは引っ込んだ感じだが、曲のスタイルを考えればペスト・アレンジといえる。プレイは比較的ラクなはずだが、だからといって侮らずにきっちり弾くこと。

BASS: ほとんどが8分弾きのパターン。こういったナンバーではノリがすべてなので、 頭で色々考えずに体でのって弾いてほしい。そうすれば、それがサウンドに現れてくる ものだ。力強いピッキングで、ドライヴしたサウンドをめざそう。

DRUMS: パターンがシンプルなだけに、パワフルなドラミングを心がけたい。ギターとベースがベーシックな8ビートを出していることで、曲全体のリズムとしてパスドラの入れかたが重要になってくる。譜面のパターンを頭に入れたうえで、自分なりにパスドラやフィルインを入れてみるのもよいだろう。

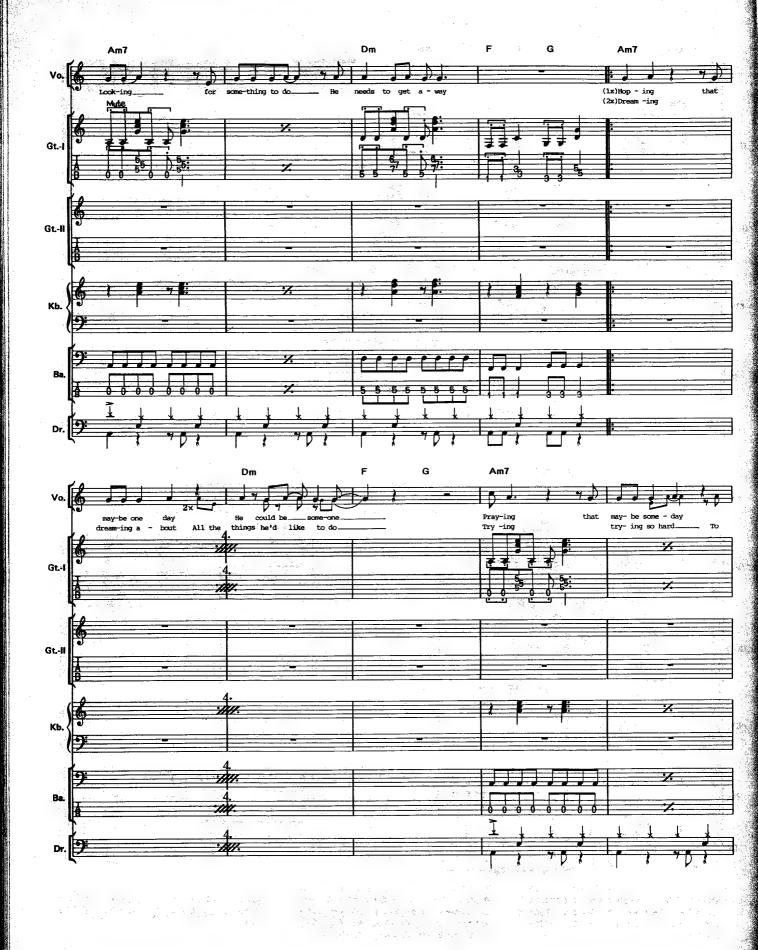


●(Gt.): アーム・アップし、ビッキング後にアーム を戻していくギターのフェイド・インで曲が始まる。 ヴォリューム・ペダルを用いて記憶のとおりに弾き たい。 ●(Dr.):スネアとフロア・タム、少しフラム気味に 力強く叩こう。

●(Kb.): ギターとユニゾンのポリ・シンセ。ここで の目的は、サウンドに厚みを出すことと音色の変化 にある。ギターとのパランスを充分研究すること。 ⊕(Ba.):開放弦を使った8ビートのパターン。押弦 して出した音と開放弦では多少ニュアンスが異なる。 粒をそろえ、地を遣うようなビートを出そう。



●(Gt.): 充分ドライヴさせたサウンドで書切れよく。 また3・4・5弦を中心にピッキングし、2弦の音 があまり大きくなりすぎないようパランスに気をつ けること。 ●(Kb.): ギターのコード弾きと重なっているが、ここではキーボードは前面に出ないほうがよいだろう。 もちろんしっかりしたリズム・キープで、ギターと タイミングを合わせることはいうまでもない。 ●(Dr.):基本となるパターン。3拍目ウラのパスドラがモタらないように、ひたすらパワフルなドラミグを。





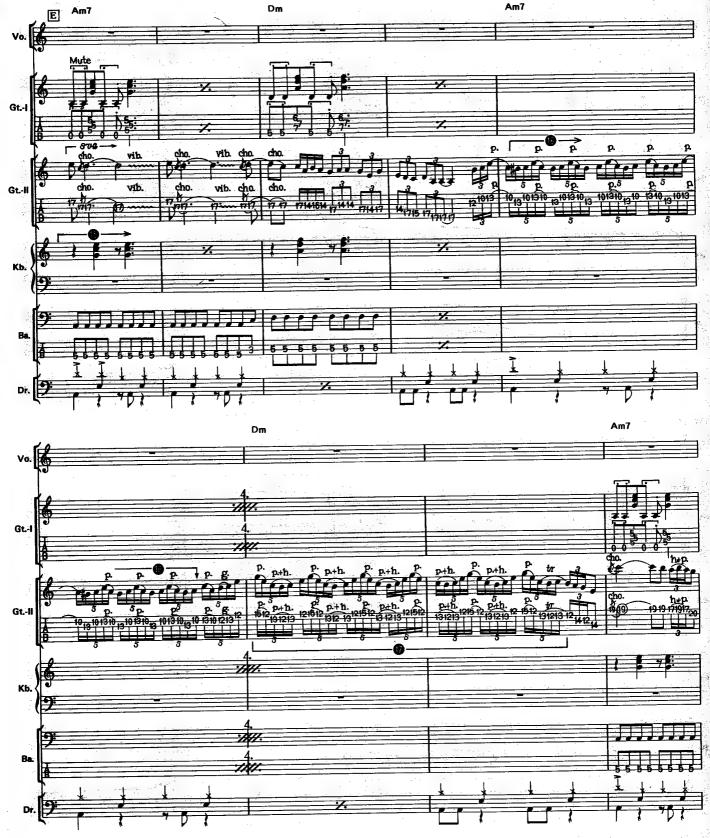
- ❸(Dr.):この曲のテンポで16分のフィルを入れようとすると、かなり速く叩かなくてはならなくなる。ムリにこのフレーズを入れずに、自分の力量に合ったフィルインを叩けばよいだろう。
- ●(Gt.): 囚のリフと同じフォラムでコードが変わる。 ●(Kb.): バッキングの中でのキメといってよいだろう。 1 拍目のウラが決してモタらないように注意。 ギターとともに、鋭くサウンドにくい込むことが大切だ。
- (Ba.): クロマチックのフレーズ。左手と右手のコンピネーションがしっかりしていないと、シンのある音が出ないので気をつけよう。



●(Gt.): [○には厳密にいうと 4本のギターが入って いる。ギターが 1 人ならギター I を、ツイン・ギタ ーならギター I とギター II を弾くとよいだろう。

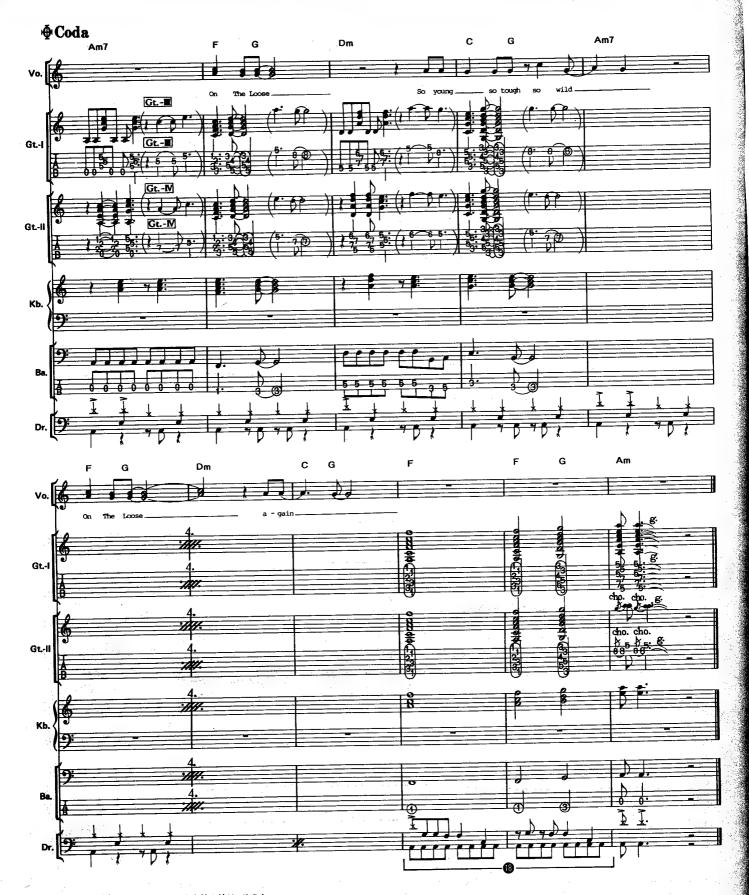
●(Dr.): 2拍目のシンバルとスネアによるアクセントが効果的。





●(Kb.): ここからギター・ソロのバッキングになる。 もしギタリストが1人のバンドなら、キーボードの ヴォリュームを多少上げて弾いてもらいたい。この ようなときは、オーバードライブなどを使うのも1 つのテではある。 ●(Gt.): 4音で1フレーズのものを5連にのせて弾 く。フレーズのアタマが1つずつずれていくので、 オルタネイト・ピッキングでしっかりリズムをとっ て弾くように。 ●(Gt.):今度は 6 音 1 フレーズのものを 5 連にのせる。●同様リズムが崩れないよう注意すること。





●(Dr.):パスドラでずっと8分を踏み続け、その上にタムのオカズをのせる。タムのフレーズを、リズム面でテンションのあるものに自分なりにアレンジしてもよいだろう。

LOVE CHASER

ラブ・チェイサー

by J. Tempest

Copyright © 1986 by SEVEN DOORS MUSIC/EMI MUSIC PUBLISHING (SWEDEN) AB Rights for Japan assigned to TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

■この曲のポイント

GUITAR: バッキングは、これまでに頻繁に出てきた 「一のパターンがほとんどだ。 ブラッシングの音にも気を使い、安定したピートでプレイしよう。そしてソロには、す さまじい速弾きが登場。リズムを無視して1小節にできるだけ音をつめ込むといった速 弾きも多いが(また当然それなりの味があるが)、ここでは、 6連や 9連を正確にピッキ

KEYBOARD:全編に使われているのはストリングス|台だけだが、[Intro.]のみもう| 台シンセが必要。あまり目立たないものの結構出番は多く、他パートの導入を受け持つ など責任も重い。演奏はそれほど難しくないが、音のつながりやパランスにも気を配り

BASS: ほとんどがギターとのユニゾン。タイミングを合わせてほしい。 ただギターが 「日であるのに対し、ベースは「サー」というリズムだ。これはベースも「月にする とリズムにしまりがなくなるためだ。なお最初の16分音符は、スタッカート気味に弾く

DRUMS: シンプルな 8 ビートのパターンでとおしている。重たいノリを心がけてドラ ミングを。また後半のサビのリピート部分では、各自自由にフィルインを入れて曲を盛 り上げたい。



●(Kb.):重厚でソフトなストリングス。ラストまで 使う音なので、曲の持ち味に合わせて念入りに設定 しよう。なおこのパターンはサビでも使われるもの。 ❷(Kb.):[Intro.]の2小節間にのみ出てくるチェンパ 口系のシンセ。はじけるような強めのアタックで、 ストリングスのコードをひきしめよう。これはおそ らく、ストリングスのパターン単独ではさびしいた めとり入れたものだろう。



❸(Gt.):「ラブ・チェイサー」以外にも頻出するもの。 最初の8分音符をきっちり出さないと軽くなってしまうので注意。 ⊕(Ba.):曲をとおしてほとんどがこのパターン。リズムのシンになるものだから、安定したビートが出せるまで練習すること。

❸(Dr.):シンプルな 8 ビートの 2 小節パターン。



❶(Dr.):スネアだけのフィル。32分音符をスムーズ に絡ませよう。



⑦(Gt.): %でハーモニクスを出し、アームで3度分 音程を上下させ、大きくヴィブラートをかけながら アーム・ダウン。



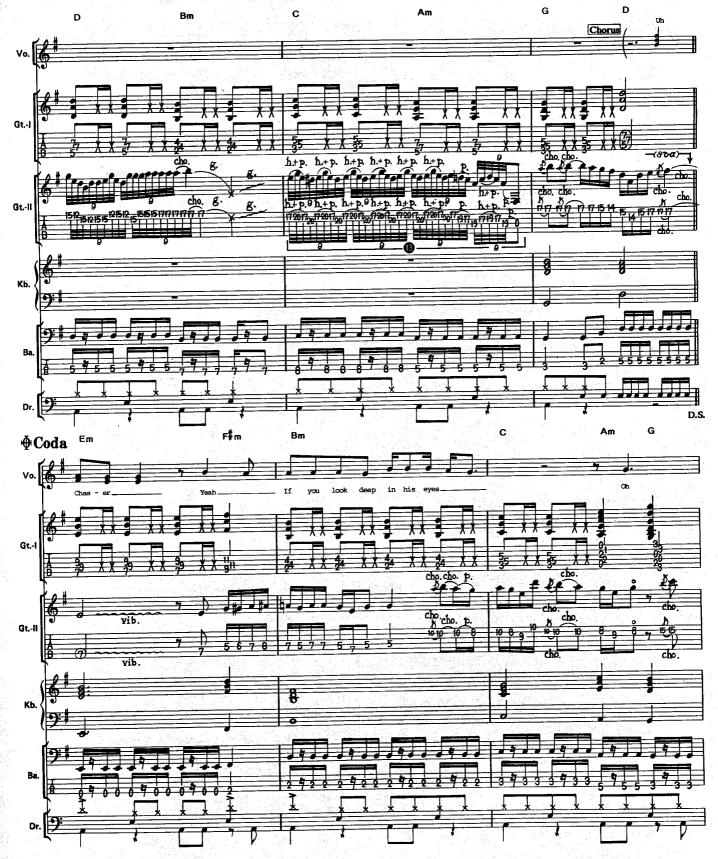
❸(Gt.): 低音弦では軽くミュートしながら力強くピッキングする。マシンガンのような迫力を出したいところだ。

③(Dr.):徐々にクレッシェンドさせて盛り上げよう。④(Ba.):ギターとユニゾンのパターン。2小節目のマトをドラムスやギターとピッタリ合わせること。

●(Dr.):スネアとバスドラのタイミングに注意が必要だ。



●(Gt.): 7音から成るフレーズのパターンを9連譜 にのせ、すべての音をピッキングして弾く。速く弾 こうとするとピッキングが弱くなりがちだが、それ では速弾きの魅力が半減してしまうので、必ず力強 いピッキングで。



●(Gt.):符割りが非常に細かくリズムが狂いやすいところだ。充分注意してほしい。



●(Dr.):●部分のフィルは、自由に変えてみても面 白いだろう。エンディングらしく盛り上げてみたい。